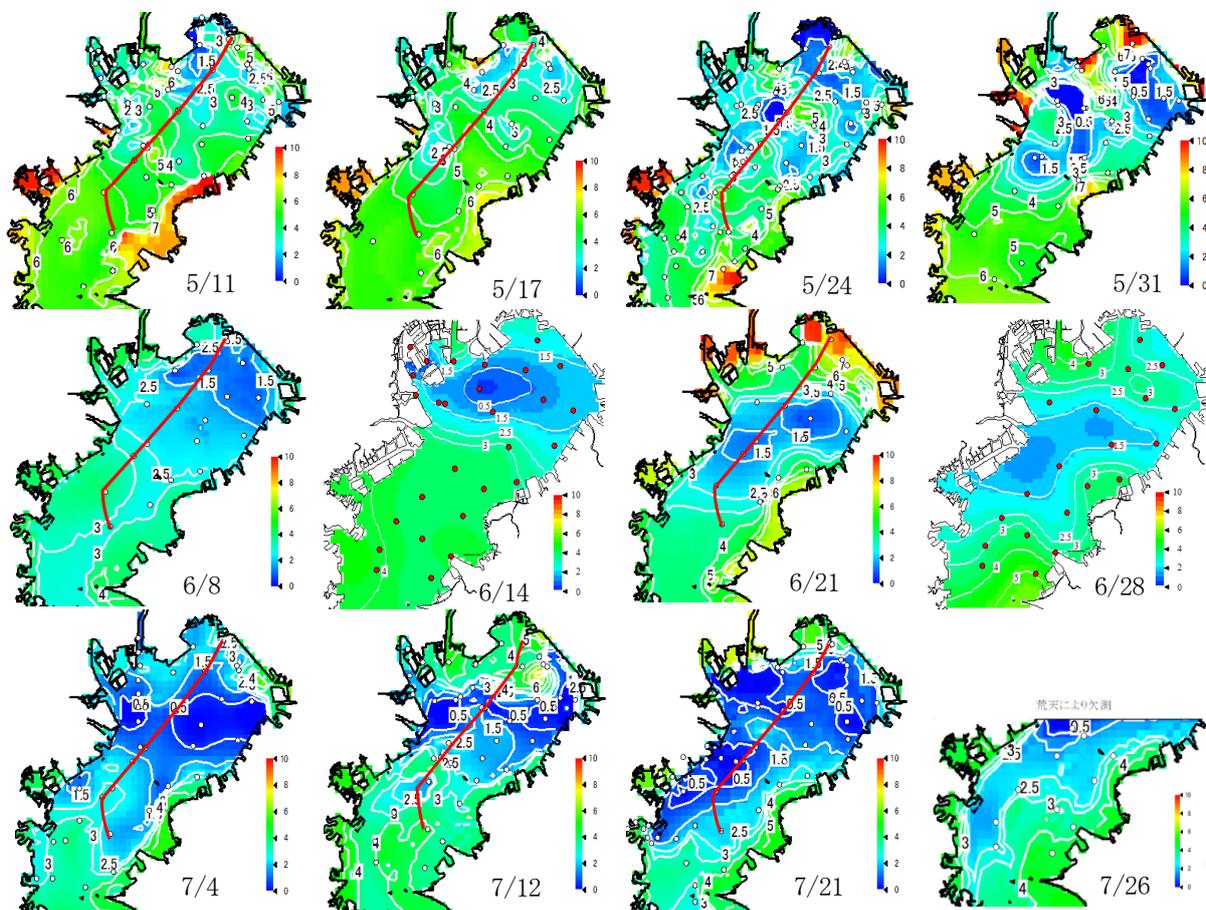


## 2022年（令和4年）の貧酸素水塊 まとめ

2022年の東京湾における貧酸素水塊について、底層の溶存酸素分布をみると（図1）、5月11日に初確認されました。5月中旬～下旬にかけて一時的に縮小しましたが、6月14日には内湾北部中央で溶存酸素量が0.5 mL/L以下と強く貧酸素化した状態になりました。その後7月上旬にかけて貧酸素水塊の分布が急速に拡大しました。7月7～11日に発生した青潮の影響で一時的に貧酸素が解消されましたが、8月上旬にかけて再拡大し、その後、数回の青潮発生を繰り返しながら縮小していきました。10月下旬以降は表層水温低下に伴い鉛直混合が促進されて貧酸素水塊は小規模となり、11月22日以降は貧酸素水塊の発生はありませんでした。

鉛直縦断面における貧酸素水の割合からみた貧酸素水塊の規模は（図2）、6月8日時点では8%と直近10年平均程度でありました。7月12日に青潮の影響で一時縮小しましたが、8月2日に54%と今年最大規模になりました。貧酸素水塊の規模は（図3）、直近10年間の年最大規模と比較すると、今年は最大でした。

千葉県水質保全課によると、青潮は6月8～10日、7月7～11日、8月5～8日、8月22～23日、8月30日～9月1日、9月12～14日の計6回発生しました。



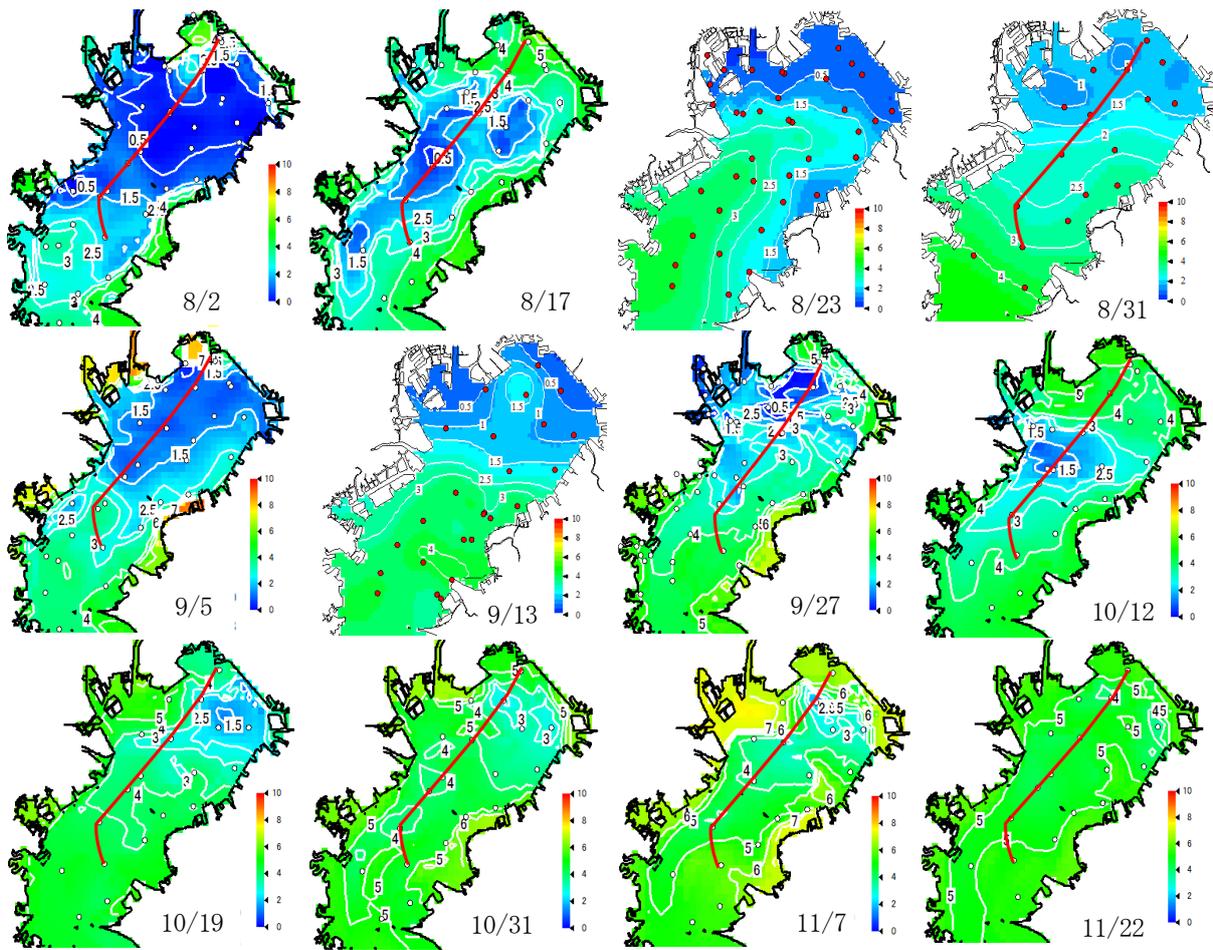


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位は mL/L 赤線は縦断ライン

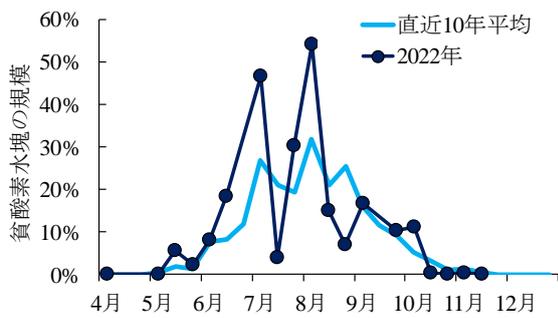


図2 縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模の季節変化

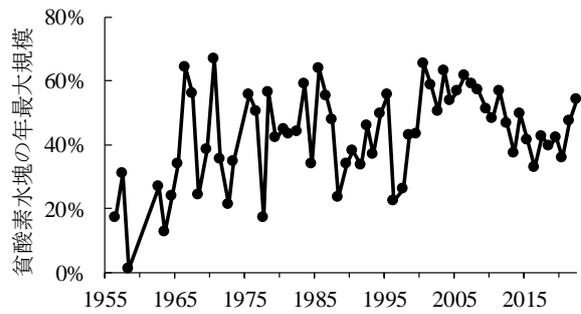


図3 年最大規模の経年変化